

# 「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成27年度実施状況について

事業名称等	提供区域	意見等
	1～3号	
幼児期の教育及び乳幼児期の保育の提供	全体	・見込みに対して量の確保ができていない地域もあるが、3号については、小規模園(地域型保育事業)の設置によって、2号については、幼稚園のこども園の移行などで対応していけるのではないかとと思われる。
	2号	
幼児期の教育及び乳幼児期の保育の提供	全体	・見込みに対して量の確保ができていない地域もあるが、3号については、小規模園(地域型保育事業)の設置によって、2号については、幼稚園のこども園の移行などで対応していけるのではないかとと思われる。
	3号(1,2歳)	
幼児期の教育及び乳幼児期の保育の提供	中島	・3号の0歳児は量の見込み、確保ともに「0」です。これは評価の必要性があるのでしょうか。
	3号(1,2歳)	
延長保育事業	全体	・量の確保が十分にでき、受け入れもできているが、保護者の要望に応えられるよう、余裕を持った保育士の配置が必要になってくる。
延長保育事業	中島	・中島での実績は0で自己評価は『△』となっていますが、延長保育ができる安心感は、子育てで大切なことであると思います。
一時預かり事業	全体	・在園児対象型以外は、量の見込みよりも実績値が多くなっている。利用者は地域にもよるが、現状では、希望の日や希望の園に預かってもらえないこともあるようで、特に、0歳児の受け入れ園が少なく確保が必要かと思われる。
一時預かり事業	中島	・中島での実績は0で自己評価は『△』となっていますが、延長保育ができる安心感は、子育てで大切なことであると思います。

# 「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成27年度実施状況について

事業名称等	意見等
児童クラブ運営事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の確保は順調であるが、支援員の資質の向上についても今後継続的に取り組む必要があると思われる。特に、昨今においては子どもの育成に携わる者による事件が発生していることから、日頃から適正な支援が行われているかのチェックが必要である。</li> <li>・数値(実績値)評価からは、さらに高い評価に届くとも考えられるが、ある特定地域の問題に接しどうしても、これ以上の評価はできなかった。ただ1つの児童クラブの内容が全体に及ぶとは考えられれないが、見過ごすことができないので、この問題点については、個別に市側と相談したい。</li> <li>・実績上は成果が上がっているように見えるが、地域の保護者の意見などを聞いてみると不満が多いと感じている。場所は確保できているが、支援員の質の問題、人数、指導内容などを見直すべきではないのか。</li> </ul>
子育て短期支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価に書かれているように親戚や友人に預けたりといった「地域における支え合い」が機能していることも影響していることからすれば、計画値の見直しも必要ではないか。</li> </ul>
乳児家庭全戸訪問事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年ごとではなくてもよいが、利用者の声(意見、評価)を拾う取り組みが必要。</li> <li>・母子保健推進員の地道な努力で産後ママとのつながりをつくり、情報提供や産後うつ防止のための聞き取りを実施し、赤ちゃん相談、赤ちゃん健診、予防接種へのつなぎをしています。問題は地区格差(推進員が各地区、人数にばらつきがあり、出生数の多い地区に推進員が少なく無理のある状態)があり、それについての公募の方法による今後の課題がありそうです。</li> </ul>
地域子育て支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃんサロン等(ひろば型含む)については、乳児全戸改定訪問事業の推進員が各地区の実情を踏まえ、4か月までの訪問時に、冊子等を利用して紹介しています。北条の児童館新設はもちろんのこと、カタリナ大学の「ぽけっと」等についても紹介し、親子で楽しく過ごされ、利用者が増えつつあると感じています。</li> </ul>
病児・病後児保育事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用した母親は、どの方も評価が高かった。どうしても必要に迫られての事業だけに利用者にとってはありがたいと感じた。</li> </ul>
ファミリー・サポート・センター事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内においては類似のサービスが縦割りで実施されているため、市民にとっては分かりづらい部分があるのではないかと。一度関連事業を比較しながら事業の整理、統合についての検討も必要ではないかと思われる。</li> </ul>

# 「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成27年度実施状況について

## 自由記載欄(第4章部分に関する事項を含む)

### 意見等

・多様な設置主体による保育の受け皿の急速な拡大により、全国的に事故が多発しているように感じています。子どもの安全・安心のためにも、施設設備だけではなく保育士のスキル（技術はもちろんですが特に感性）が向上するような対策を希望します。

・教育も保育も、子どもは園と保護者の良好な信頼関係や、情報、価値観の共有があって成り立つと思います。行政や現場がどんなに頑張っても、保護者の協力がなければ成果は望めないで、保護者と現場職員との意識の差ができるだけ小さくなるよう（差が無いのが一番です）、職員だけでなく、保護者の子育て意識の向上につながるような啓発活動を期待します。

・希望者にとって、保育を利用できる施設の情報を得たり相談できる場所はとても重要です。量の見込みは5となっていますが、もっと増やしてもいいと思います。今後予算の許される限りぜひ充実させてもらいたい事業です。

・今後の支援事業推進での未満児保育の充実を図る上でも保育士確保が課題となる。この課題克服の具体的対策も視野に入れ検討されたい。

・全体的な待機児童は、解消されたとしても、地域によって開きがある。保護者が希望する園に入所できることが理想ではあるが、小規模園（地域型保育事業）の開設や認定こども園の移行による量の増加により、将来の運営に危機感を持っている園もあるので、量の拡大については慎重に進める必要がある。

・実績数値については、概ね確保予定通りとなっており問題ないと思うが、量の見込みと実績についての差は気になるところがあったので、28年度実績も踏まえながら、計画自体の見直しは必要だと感じた。

# 「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成27年度実施状況について

## 自由記載欄(第4章部分に関する事項を含む)

### 意見等

・ 全体的に目標数値の達成度による評価が主になっているが、いずれの事業も対人援助に関係するものであるため、支援を受けた側の満足度評価も計画の進捗管理の上では必要ではないかと思う。

・ ④子育て短期支援事業、⑨病児・病後児保育事業、⑩ファミサポ事業について、少し厳しい点数をつけさせていただきましたが、「利用人数の多い少ない」が評価とは思っておりません。が、必要としている人は潜在的にもっと多いはずなのに、利用されていないのには、何かが足りないような気がします。一つは利用者側の「意識」の問題です。⑨や⑩には近くでも賛否の声があり、「子どもを病気の時に預けるなんて」等、そういった過去の価値観の壁をなくす啓発も必要だと思います。

・ 例えば「子育ては地域と共にやっていくほうが、子どもも健やかに育ちます、子どもが病気の時、パパもママも看れないときは、地域を頼って良いんですよ」など、受援力（レジリエンス）を高めるような具体的な啓発を示してはどうかと思います。